

【刊夕】日五十月四

定價部金一 價定
 廣行發 料告廣 五號三 字十 一語一 行十五 錢五
 編行發 人編編 入印入 人刷印 川崎川 文時時 沿五三 五三町 橋長町 平郡城 石縣島 籍
 所行發 社開新 日警常 所有發 番〇三 六話電 社開新 日警常 所行發 社會式 株刷印 日每警 常所刷 印

花祭りと釋尊傳

桐原英純

◇當時の印度

釋尊御出世に遡る、こと五百年にしてキリストが降誕したのであります。その頃の印度の國柄は、當時の世界の何れの國に比較するも、誇るに足るべき新しい文化を有してゐたこと、思はれます。殊に天地宇宙、人生といふが如き哲學、宗教上の精神的方面に於て、今日の金や名譽のことばかりに熱中してゐる現代人の及びつかぬ程の考へ方を有してゐたやうであります。釋尊といふ偉いお方が、忽然として平地に煙突の立つてゐるやうに突き抜けて現はれたのではなく、高原の高山の最高峯が世界で一番高い山となり得るやうに當時の印度は釋尊の出世以前に於て、婆羅門教といふ宗教が、殆んど行きつく頂点にまで發達してゐたのでその以上にはどうにも昇り得ぬといふ非想非非想處といふ三界の頂邊で行き止つてゐたのであります。それです。釋尊の印度には、エライ學者も澤山にゐて、それを學ばんとする多くの弟子たちを従へ、尙ほ森林中に冥想、參學に餘念もなかつたのであります。それ等の學派は九十六派ありなかに、最もすぐれた代表的ものが六派ありました。それを六師外道と呼び、今日の學者や博士方も一生懸命に頭をひねつて、その哲學を研究してゐる有様であります。その頃の印度は我が徳川時代の士農工商といふやうに婆羅門、刹帝利、吠舍、首陀羅の四階級があつて、その社會生活は嚴然と區別されてゐました。婆羅門といふのは神につかへる職業で最も尊貴とされた、刹帝利といふのは王族です。吠舍が農工商の階級で、首陀羅といふのは最も賤しい奴隷階級として同席をも許されぬ程でありました。婆羅門族は成長して妻を迎へ世繼の子供が出来るのを待つて山に入り修業するといふのが普通のゆき方であつたので、後の釋尊のゆき方も形式の上から見れば大体それに似通つてゐます。兎に角、さういふ時代に出世せられたのが釋尊牟尼佛でありまして、その開かれた佛敎とは、土臺のないドン底から築き上げた學問ではなく、當時の印度文化を積み重ねた高原の上に生れ落ちて、それ等を學びつくし、その上に一歩突き抜けたのであります。それから、婆羅門と佛敎とは極めて近接してゐますが、タッタ紙一枚の差が實に千里の開きを生じてゐることになります。(をばり)

初雀

渡邊何鳴

初雀たゝせて大扉ひらさけり
 初雀胸ふくらませ並びけり
 さしのぼる日に樹々明し初雀
 初雀葉塚の旭にこぼれけり
 初雀野に知りつゝ起きやらす
 初雀八ツ手の雪をこぼしけり

度は我が徳川時代の士農工商といふやうに婆羅門、刹帝利、吠舍、首陀羅の四階級があつて、その社會生活は嚴然と區別されてゐました。婆羅門といふのは神につかへる職業で最も尊貴とされた、刹帝利といふのは王族です。吠舍が農工商の階級で、首陀羅といふのは最も賤しい奴隷階級として同席をも許されぬ程でありました。婆羅門族は成長して妻を迎へ世繼の子供が出来るのを待つて山に入り修業するといふのが普通のゆき方であつたので、後の釋尊のゆき方も形式の上から見れば大体それに似通つてゐます。兎に角、さういふ時代に出世せられたのが釋尊牟尼佛でありまして、その開かれた佛敎とは、土臺のないドン底から築き上げた學問ではなく、當時の印度文化を積み重ねた高原の上に生れ落ちて、それ等を學びつくし、その上に一歩突き抜けたのであります。それから、婆羅門と佛敎とは極めて近接してゐますが、タッタ紙一枚の差が實に千里の開きを生じてゐることになります。(をばり)

平よいとこ一度は御出精幸堂
 松ヶ岡公園コリヤ櫻名匠チヨイナ
 花は櫻木時計は精幸堂
 良い品安いで客がすくチヨイナ
 チヨイナはとこから流る精幸堂
 時計修繕セイ出はまの音チヨイナ
 時は金なりタイムを正確に精幸堂
 皆な世の爲店の爲チヨイナ
 共存共榮をモットーとする皆様の

精幸堂時計店

ヨウモーターン!
 い、服を求めたね
 断然三一年型だよ
 いやコレカネ
 例の……「ソレ」

正札堂

六三四電通場車停目丁四町平

理想的耐水耐熱接合劑
キングパスト
 ●水か微温湯で溶せばすぐ使へる簡単な接着劑
 ●一名コナニカワ
 ●四季を通じて一度ついたら膠着力は絶對的です
 ●理想的完全耐水耐熱の可驚威力を發し防腐の効果著し

小野屋薬店
 電話一四四番

日本人のおひげそりに一番適した
モーニング替刃
 兩刃安全剃刀用優良品
 ▼日本人の様な剛い鬚にステキな切味を示す
 ▼刃の切味に當り外れがない
 ▼普通替刃の三倍以上保つ
 ▼價格至廉替刃中でも經濟第一位

おひげそりの快味
 安全剃刀機械
 一枚刃付四十五錢

錢五十四・包一枚五
 錢十八・同枚十
 錢二十各料送

元賣發
 目丁五町平

店商屋釜
 もて店物金貨雜方地
 すまり居てし賣販

移轉御披露
 今般(錦水隣)へ移轉致し候に付從前通り御負下され度御願ひ申し上げ候
 かば焼
 平町田町(錦水隣)
 出前迅速 魚
 電話四二四番 榮

花見は是非折詰當の御注文願ひすまひ
 小料理 天婦羅
 電話 呼二五八番 傳吉 前局平

農會廢止の裏面的運動を警戒

故意に役員を決定しない 近く警告を發する

改選後の町村農會總代會は選舉後十日以内に開催し役員を決定することに農會法に制定されてあるに拘らず石城郡下で十日までに總代會を開いた町村は僅かに五指をもつて數へる程でありその他は一部町村を除き農會廢止の裏面的運動として故意に開催を延滞し講じてゐる模様なので郡農會では成行を憂慮しとにかくこれ等町村に對して近く警告を發することになつた

平町農會の役員を決定

選舉の結果

平町農會では十三日町役場會議室に總代會を開き役員選舉を行つたが當選者左の如し

- 會長 山崎與三郎、副會長 諸橋國松、評議員五名、猪狩彌作、荒川恒次郎、岡田長太郎、諸橋久太郎、猪狩角吉、代議員、諸橋久太郎、同豫備員、荒川恒次郎

徵稅事務

並に講習會

平稅務署では今月末仙臺市に開かれる東北稅務署長會議の終了を待つて管内六町二十八ヶ村稅務主任吏員會

火災契約締結

平町有建物 三十四萬圓

平町では昨十四日町有財産の各建築物(各學校役場隔離病舍火葬場)等の火災保險契約を行つた、契約高は三十四萬圓で率は過般の火保率引下運動に失敗して以來非協定會社と結ぶ事に決し

所得調査會

廿八日に開く

平稅務署では来る廿八日午前十時所得調査委員會を開く事に決定し目下營業收益所得兩稅共各個人毎に調査の歩を進めてゐるが大體昨年より二割の減額を免れな

内閣成立觀櫻

石城 民政黨同志會の春季總會は

今十五日平町南町民政クラブに開き諸般の協議をなし次いで松ヶ岡公園で若槻内閣の成立祝賀を兼ね觀櫻會を催した

四倉消防表彰

石城 郡四倉署管内の春季消防檢閲は十二日執行したが當日

左の功勞者表彰を行つた
廿年勤續四倉面川源四郎 外六名、十五年勤續箱崎忠衛外五名、久の濱町新妻八郎外九名

養正會演說會

立憲 養正會石城支部では左記日

割で演說會を開く
▲十六日平町聚樂館、十七日內郷昭和館、十八日警崎村

人力車体検査

四倉 署管内の人力車体検査は二

十日午前十時から同署前で行ふ

滿鮮土産談話

川崎小鳥

◆滿州の風土を想ふ時、荒芒たる大原野、稀れに見る山岳には一本の木もない

◆然れ共天は此の土に恵みして豊富な炭田と鐵礦を與へ、而も海に面して鹽田あり、耕地は東洋の穀倉として大豆、高粱、玉蜀黍、粟、小麦等の特産物の收穫を見る

◆のみならず旅情を慰むる温泉は、不斷滿々として其の湧出量を誇つて居る、熊岳城、湯崗、五龍背、此の三ヶ所である

シクタ 人氣投票を終へ

(承前) 四倉の一角から櫛の齒を引くが如く本社に舞ひ込む人気が何れも「旭タクシ」の文字に依つて埋められて居た旭を落すなを聲は四倉全町に漲り女子供迄も大騒ぎで青年團員の如きは戸別訪問の應援迄も惜しまぬ程の熱心振り其の素晴らしい人氣は全く驚くの外は

なかつた、此の人氣を一身に背負つて立つ旭タクシの營業者は本年廿五才の一年、吉田忠君である、身若くして亡父が經營して居た市内の乗合馬車營業を繼承したのであるが、早くも時代の趨勢を見てとり自動車の必要を痛感するに至つた爲め、資本の金策に奔走した旭四倉町では未だ早いと誰一人本氣になつて青年忠君の一生懸命な相談に乗る者がなかつた、而し熱心さは遂に人を動かす間も

温泉が湧き出て居るから、寧ろ屋内の湯につかるより此の砂風呂に這入つた方が面白味がある
◆河邊のバラック建てが風を防ぐ装置になつてゐるが、其中で、龜の子の様に砂を掻くと熱湯が出て来る砂の中に身を埋めて、ジツ／＼としみ出して来る湯を五体を感じながら冥想にふければ、世の中の苦勞は總べて消し飛んで仕舞ふ

◆熊岳城の宿も、整つて居て、内地の一流旅館に匹敵するが、此處では宿から少し離れた河邊の砂地から

今日話

◆土瓶や茶碗の茶澁、茶澁で赤くなつたのは、簡單には鹽で磨くと綺麗になります、澤山一度に洗ふには一つ一つ磨くのは面倒ですが、灰汁で煮るか生灰を溶かして洗ふとよくとれます。

◆鍋釜の焼こげの取り方。鍋や釜の底をこげつかせて取れぬ時、木炭でこすれば器物を痛めずにたやすく取れます。

◆釜のこげつく癖。こげつく癖があるときは、前のやうに木炭でこげをよく洗ひ落したのち底に皿をかぶせて、これに洗つた米をうつし普通にたいて二三回すれど繰り返す。

なく其の抱負は實現して自動車業を開始する事を得、今ではシボレーの新臺が風を切つて四倉町を中心に八方を馳驅して居る
イワキタクシは平驛前通り有聲座の東隣りに營業所を構へて居る、創業は大正十四年であるから今年で八年目、自動車業の辛らさ甘さも嘗め盡して今や正に油の乗りきつた處女主人の草野キミさんは女性に稀な働き者との評判にそむ

空は青々として 太陽は輝いて居る

31年の 春の御用意は是非私共に

モリタヤ洋品店

5丁目 電話 353

貸切の

御用命は?

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ (マツサキ)

三九二タクシへ!!!

花は今見ごろ けふ八分咲き

平町松ヶ岡公園の櫻は二三日来寒かつたために幾分遅れたがけふは天気も回復して久し振りの麗かな日和となり花も八分咲きです。観櫻會を開いた團體数は二十八に達したが次の日曜日の十九日頃までは大丈夫散らないだらうとの豫想である。

花澤龍舟氏 書道展入選

七言絶句が

平町胡麻澤花澤久一郎氏の子息一氏は書道に志して埼玉縣松崎春川氏に師事し家業の傍ら書道を研究龍舟と號して昨年十一月泰東書道院第一回展に入選したが今回又も日本美術協會の書道展にその七言絶句が入選した。

一千圓寄附 諸橋氏が

石城郡平町諸橋久太郎氏は此程日本赤十字社に金一千

田村平局長勇退 高等官六等に昇進

平郵便局長田村彦四郎氏は十三日付で通信事務官(高等官六等)に昇進勇退することとなり平局在勤の板倉茂次郎氏が局長心得兼務を命ぜられた。

大盡客が 裏から逃走

憤慨して告訴

石城郡飯野村上高久居住大和田義光(三)は去る十月午後八時頃江名町北町飲食店佐藤半三方に登樓し大金を所持せるもの、如く云ひなし藝妓をあけて大盡遊びをなし十圓五十錢を遊興費消した上同方裏口より無断逃走行衛を晦したので半三は

圓を醸出有功社員の申込み手續きを了した

腹縁された 腹慰せに 衣類を提出す

平町新川町荒ヨシエ(三)は昨年十月平町古鍛冶町緑川三次(三)方へ嫁入りをしたが二月十三日離縁されてしまったのでその腹慰せに三次の不在中茶ダンスより衣類を窃取し逃走した爲め十五日三次は平署に告訴を提起した

腹立て魚屋が 子の頭に風穴

無断で自転車に乗ったを憤慨

石城郡内郷村金坂鮮魚行商人箱崎崎與一(三)は十四日午後八時十八分頃平町に行商に來た歸途五丁目野上ヨシ方附近へ自轉車を乗り捨て、置いた處同人の長男清

便所に激突 自動車小破

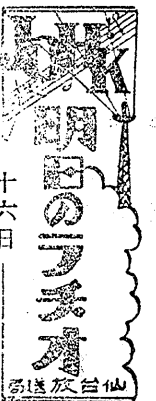
自動車を小破

茨城縣久慈郡太田町貨物自動車營業簿中熊吉方運轉手片野勇(三)は十三日午前五

腹立て魚屋が 子の頭に風穴

無断で自転車に乗ったを憤慨

石城郡内郷村金坂鮮魚行商人箱崎崎與一(三)は十四日午後八時十八分頃平町に行商に來た歸途五丁目野上ヨシ方附近へ自轉車を乗り捨て、置いた處同人の長男清



明日の天気
十六日
今晩は南西の風曇り小雨模様明日は南西の風晴れ

今晩の部

- 後六、三〇 英語講座「初等科」(二) 岡倉由三郎
- 後七、〇〇 全国ニュース 河北新報社 ニュース 氣象通報告知事項 番組豫告
- 後七、二五 副業講座「東北副業の現況と将来」農林省副業課長 小松陽一
- 後八、〇〇 俳諧 岡和田 嗣男外
- 後八、三〇 落語「棒屋」 柳享魚樂
- 後九、〇〇 長唄 吉住小桃次外
- 後九、四〇 時報 全国ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項
- 前六、三〇 ラヂオ体操
- 前九、〇〇 經濟市況
- 前九、一〇 料理献立「就學兒童と献立辨當料理」(一) 小野玉枝 發表
- 前九、三〇 經濟市況
- 前九、三〇 家庭講座

明日の部

- 前六、三〇 ラヂオ体操
- 前九、〇〇 經濟市況
- 前九、一〇 料理献立「就學兒童と献立辨當料理」(一) 小野玉枝 發表
- 前九、三〇 經濟市況
- 前九、三〇 家庭講座

他人の 山で炭を焼く

石城郡川前村大字桶賣字敷の上松原豊治(三)は同村字城木上三浦文太郎(三)が拂下げた同字國有林内炭材約二反歩五百俵程時價五十圓を窃取し炭を焼き賣却したので三浦の告訴により小野新町署に於いて取調中

小野寺氏挨拶 新任

平署特高主任警部補小野寺軍平氏は十四日平町官公衙に就任の挨拶をなした

哀れなルンペン 平署で同情

平署人事相談所へ十四日午後七時頃一人の男が訪れて旅費の貸與願に出たので係官が取調た處右は東京市芝區下川原和田喜一(三)とて昨年未北海道に渡つて仕事を捜さんものと單身出稼に出たが思ひから各地を流浪した末全く着のまゝとなつてしまつた爲かくは平

謹告

各位益々御清祥之段奉慶賀候陳者今般顧客本位を主眼とし同業者相互の向上を計り

- 平西洋料理業組合
- 平三業保健組合
- 平料理業組合

右三組合一丸となり茲に組織し「平和會」と稱し平素の御負顧客に酬ひたく今回開業せる藝妓置屋松の屋を專屬とし藝妓を御需めに應じ申候間何卒々々舊に倍し御愛顧之程偏に奉懇願候先は御披露旁々御挨拶まで如斯に御座候 敬具

平和會見番

(電四三九)

追て組合員以外の各位に於て藝妓に用入の折は左記行司事務所又は本組合員に於て取扱ひ申候間御用命被下度此段御願申上候也 平町南町拾七番地

吉田眼科病院

平野屋町、電話六八八番

器灸温ムウチラ

醫學博士 名推獎

胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症
肥り度い人の福音 熱くなく痕つ
かす無煙式 誰にも出来る理想的
家庭治療器

約卸治 福島縣平町五ノ廿八
志賀齒科醫院
販代理 福島縣平町白銀町九
産婆 關口悦子
特部部

定價表
金拾參圓 藥及特効五週間分付
金拾圓 藥及特効五週間分付
(説明書呈)



貰つて重寶 贈つて便利な
三井の券品商
店服吳井三

目課授教

昭和六年四月
平町警察署前
阿部裁縫塾

生徒募集
和服一般、小供洋服
婦人洋服、小笠原流禮法
手藝池ノ坊生花ハ御希望ニヨリ
教授致シマス

鳥料理

末廣
番一四電



◇加納の徳姫(其四)
安城は徳吉を自身に抱けて居
て、徳吉を連れて夜中ながら本
所下木の松山の屋敷へ来て、大
宮の王吉を連れて、松山の屋敷
では王吉は先月二十八日出た切
今日になつても歸つて来ぬとの答
えだ。
切角手紙掛けたが、途中でボ
ツ、リ切れて、安城も歸らな
かた。
一方徳吉は右衛門は自分の子分
であつた杉並平之助が殺され、又
徳吉を引上げられ、唯か驚いたも
のと見え、少し酔りの手土産を持
つて三十間堀の安城の家へ挨拶に
来た。

安城はまだ歸らなかつたので、
お千代に逢つて徳吉の引上げられ
た事などを聞いて居る。
「平之助は何う云ふ素性のもの
だつたかね」
「彼奴は別に素性も何もありま
せん、矢ッ張るく尺の中に使ひ、
お徳吉の徳吉を連れて居た奴な
のです、生れは相州の眞鶴なま
す、何事にも判りが能く小柄
口な奴です、面ツつきが好く出
来て居て、尺には過ぎてますか
ら、徳吉に使つたり居ると
加納様から中小性の見習ひがと云
ふお話しを聞き、野郎の爲には
出世だと思つて、手前が身元受
けに立つて入れたのでした、が、
飛んだ間違ひが出来て可愛さうな
事を致しました……」
「ぢやアお前の家で長く働いて
居たのだね」
「長いと言ふ程でもありません
が、半蔵位はゴロツチャラして居
りました」
「夫れではお前の子分では分
りません」



平之助が心易く居たもので、
つたらうね、其内誰が一番仲好
しつたか……」
「今に下木の松山様の御屋敷
に勤めて居ますが、大宮の王吉
云ふ奴が仲好しでした、加納様
に勤めて居る……」
「ヘエ、徳吉も平之助の精進になる
かな奴で居たら、可なり御口な
方で、今はお仲間だか近日若衆に
立てられる筈に成つて居ます」
「大宮の王吉と云つたが、故郷
は大宮かい？」
「ヘエ左様で居す」
其處へ安城が歸つて来た。
「ヤア親分先刻は御苦勞儀でし
た、手前も氣になりますから一寸
御挨拶に出ました」
「然うか、何も然う心配するこ
ともなからう」
お千代は徳吉を安城に任せ
て自身茶を入替えて出す。
安城と徳吉の間に二三語
があつて後、徳吉は徳吉を告
げて歸る。
「お千代は是れから仲仙道を
修めたり修行つて来る積りだ、
旅費を出して呉れ」
「あ、判つた」

「何だ判つたのだ」
「お前さんは大宮の王吉の跡を
追ふ積りだね」
「是れは知つた、お前に夫れ
が何うして居た……」
「今徳吉の話しで殺された平之
助の一番仲好しの友達は、下木
の松山様に居る王吉だつたと云ひ
ました、お前さん多分松山を聞き
合はして王吉が歸らぬと分り、夫
で跡を追ッ掛ける、大宮は仲仙道
の入口自分の在座にはかまひま
い、故郷近い仲仙道だと見當を付け
たのでございませう」
「何うお前に出會つては仕方
がねへや、其通りだ、ダガ、其
當は何うだらうな逢つて居るだら
うか……」
安城もお千代には宛を脱が。
「進まないと思ひますよ、私も
驚は然うだらうと考へるのですか
らね」
夫れを聞き合せて笑ひ、既へ傾
いたけしを見上げながら、徳吉
へ出て旅費に出した……」

て總は命用御の物刷印
番〇三六話電 刷印日每警常

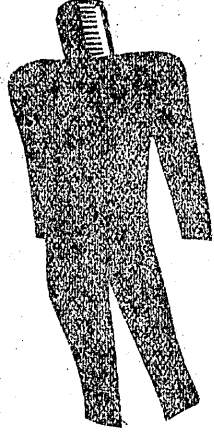
貸切は!

親しみあるサービス
を以つて知られたる
尼子タクシーへ
電話六四〇番
主任 澤正路

春の洋服

今春の新柄が豊富に
品揃ひ致しました。

新柄 背廣……14圓50銭ヨリ
黒セル背廣……7圓50銭ヨリ
レインコート……8圓00銭ヨリ
パーバリ……5圓50銭ヨリ
合トハビ……7圓50銭ヨリ



なかや洋服店 平 二 電 203

外科

門專
科線光X
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番